

長野県松本市

*KYUSYATEKIJONISI*

# 旧射的場西遺跡 III

—— 緊急発掘調査報告書 ——

1999.3

松本市教育委員会

# 例 言

1. 本書は旧射的場西遺跡の第3次緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、株式会社パナホーム東海による宅地造成事業に伴う緊急発掘調査として実施した。発掘調査および報告書の作成は同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆は、I-2：事務局、第5表：直井雅尚、田多井用章、その他を太田圭郁が行った。
4. 本書作成にあたっての作業分担は以下の通りである。  
遺物洗浄：百瀬二三子  
遺物復元・保存処理：五十嵐周子、内沢紀代子、洞沢文江  
図面整理：石合英子、林 和子  
遺物実測：竹平悦子、洞沢文江、松尾明恵、横山真理  
トレース・版組：田多井用章、窪田瑞恵、洞沢文江、林 和子、太田圭郁  
写真撮影：荒木 龍、太田圭郁（遺構写真）  
編 集：太田圭郁
5. 本書において用いた遺構の略称は以下の通りである。  
竪穴住居址：住、土坑：土、ピット：P
6. 図中において用いた方位記号はすべて磁北を指向している。
7. 遺構図中の網点部は焼土範囲をあらわす。
8. 土器実測図においては、土師器：断面白抜き、須恵器・灰釉陶器：断面塗りつぶしとした。
9. 遺物および遺構の記述において、古代の時期区分や用語などについては下記文献に準拠した。  
小平和夫 1990「第5節 古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内1-総論編』  
(財)長野県埋蔵文化財センター
10. 本調査で得られた遺物および調査の記録類はすべて松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館が収蔵している。  
松本市立考古博物館 〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL：0263-86-4710 FAX：0263-86-9189

# 目 次

例言	III 調査の概要
目次	1. 調査結果 ..... 5
I はじめに	2. 基本層序 ..... 5
1. 調査に至る経緯 ..... 3	3. 検出遺構 ..... 6
2. 調査体制 ..... 3	4. 出土遺物 ..... 7
II 遺跡の位置と環境 ..... 4	IV 小結 ..... 7
挿図目次	
第1図 調査地の位置 (1/50,000) ..... 3	第1表 旧射的場西遺跡III 住居址一覧 ..... 8
第2図 周辺の遺跡分布 (1/25,000) ..... 4	第2表 旧射的場西遺跡III 土坑一覧 ..... 8
第3図 調査区の位置 (1/2,500) ..... 4	第3表 旧射的場西遺跡III ピット一覧 ..... 8
第4図 旧射的場西遺跡III 遺構分布図 (1/200) ..... 5	第4表 旧射的場西遺跡III 実測図掲載金属器 属性一覧 ..... 8
第5図 旧射的場西遺跡III 基本層序 ..... 5	第5表 旧射的場西遺跡III 実測図掲載土器 属性一覧 ..... 9
第6図 旧射的場西遺跡III 遺構図(1) ..... 10	
第7図 旧射的場西遺跡III 遺構図(2) ..... 11	
第8図 旧射的場西遺跡III 土器(1) ..... 12	
第9図 旧射的場西遺跡III 土器(2)・金属器 ..... 13	
	写真目次
	写真図版 ..... 14

# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯

旧射的場西遺跡は、かつて長野県市町村別遺跡一覧表および長野県史において「旧射的場面」とされてきたものである。1989年の第1次調査時に「旧射的場西」と改称されたものの、名称の不適切さが指摘されつつ現在に至っている。そのようななか、株式会社パナホーム東海による宅地造成工事に関わる埋蔵文化財の保護について照会があった。事業地は旧射的場西遺跡の南東に位置していたため、事業者と協議の上、試掘調査を実施し埋蔵文化財の有無を確認することとなった。試掘調査は1998年3月9日～4月6日に実施され、奈良・平安時代の竪穴住居址などの遺構および遺物の出土が確認された。この結果を踏まえた上で再度遺跡の保護協議を行い、埋蔵文化財が破壊される可能性のある範囲について発掘調査による記録保存を図ることとなった。1998年5月1日、株式会社パナホーム東海と松本市の間で発掘調査業務の委託契約が締結され、松本市教育委員会が発掘調査および報告書の作成を実施することとなった。現地での発掘調査は1998年5月6日～6月10日に実施し、その後継続して本報告書の作成を行った。

## 2. 調査体制

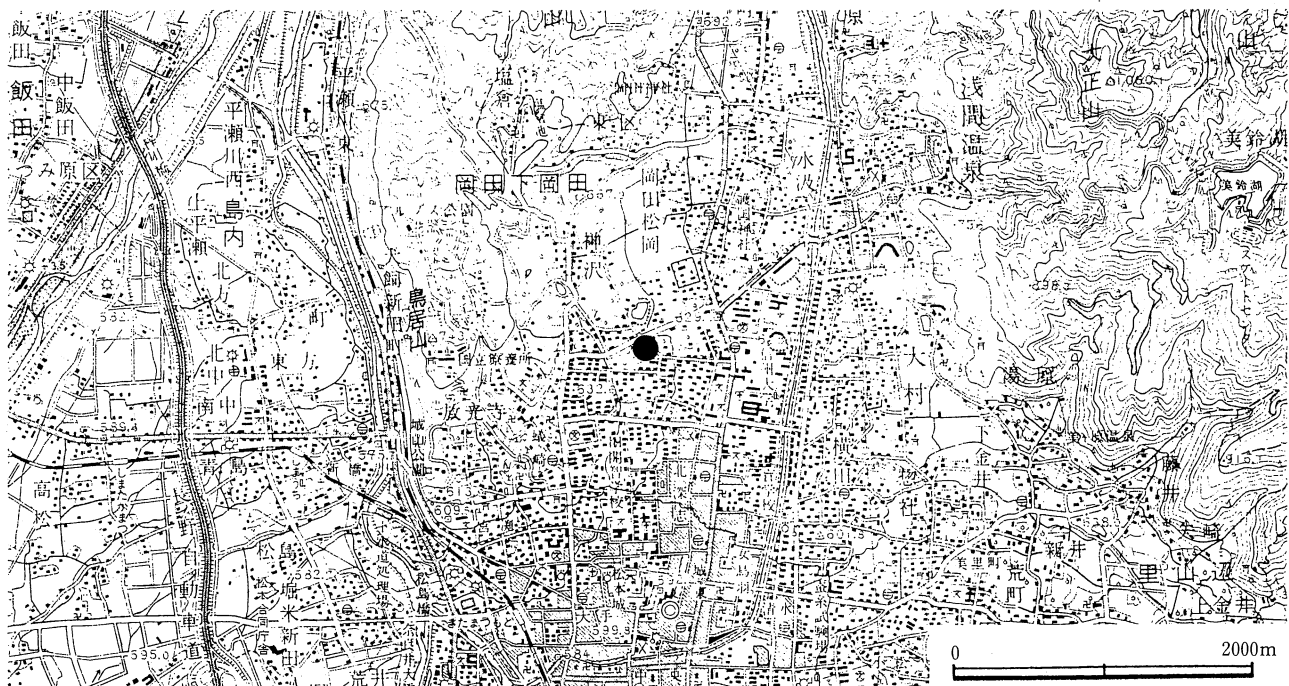
調査団長 松本市教育長 守屋立秋（～平成10.6.30）、舟田智理（7.1～10.15）、竹淵公章（11.1～）

調査担当者 荒木 龍、澤柳秀利、田多井用章、太田圭郁

調査員 今村 克、森 義直

協力者 岡村行夫、菊池直哉、久保田登子、輿 喜義、近藤忠美、斎藤政雄、田中一雄、中村恵子、  
中上昇一、藤井源吾、藤井道明、布山 洋、村山牧枝、吉田 勝

事務局 木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、  
久保田 剛、近藤 潔、上条まゆみ



第1図 調査地の位置（点部：旧射的場西遺跡）

## II 遺跡の位置と環境

旧射的場西遺跡は松本市域の北部にあたる、沢村地区に所在する。当地一帯は古くより遺跡として知られており、鳥居龍蔵、両角守一、森本六爾氏などの研究者が訪れた記録がある。これまでに本遺跡の緊急発掘調査は二次に亘って実施されており、古墳時代から平安時代を中心とする集落遺跡であることが確認されていた他、明確な遺構に伴う状況ではないものの、縄紋時代早期末～前期初頭の土器や、同時期に帰属すると考えられる石器等の出土が確認されていた。

松本市域はフォッサマグナ地帯の北部に位置し、新第三紀層と貫入火成岩類および火山岩類より構成される部分と、第四紀洪積世の島弧変動によって生じた構造盆地および、その周辺部より構成される。本遺跡を北西端とする旧松本市街地は三方を新第三紀層に囲まれ、南方に開けた景観を呈する。

調査地点は城山から芥子望主へと延びる筑摩山地の東麓に位置する、女鳥羽川により形成された段丘面上にあたる。本遺跡付近を含む旧松本市街地の堆積物は主として、緑色火山岩類、安山岩、石英閃緑岩を主体とする薄川系統のものと、ヒン岩、砂岩、溶結凝灰岩（ガラス質安山岩）を主体とする女鳥羽川系統のものにより構成されている。女鳥羽川により形成された段丘面は大まかに三面あると考えられており、調査地点はそのうちの第2段丘面にあたる。第1・第2段丘面の土壌は、筑摩山地の新第三紀層およびその上に載るロームを二次堆積物として含む、崖錐性堆積物が相当量含まれる。

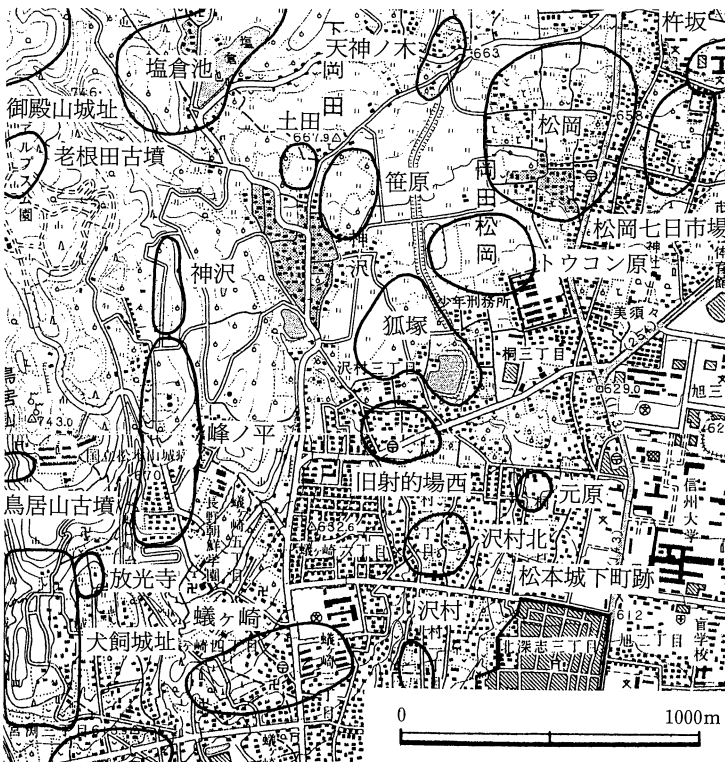
これまでの松本市域北部の発掘調査の結果から女鳥羽川はかなりの暴れ川であったことが判明しており、平安時代後期には大洪水を引き起こしたとも考えられている。

### 引用・参考文献

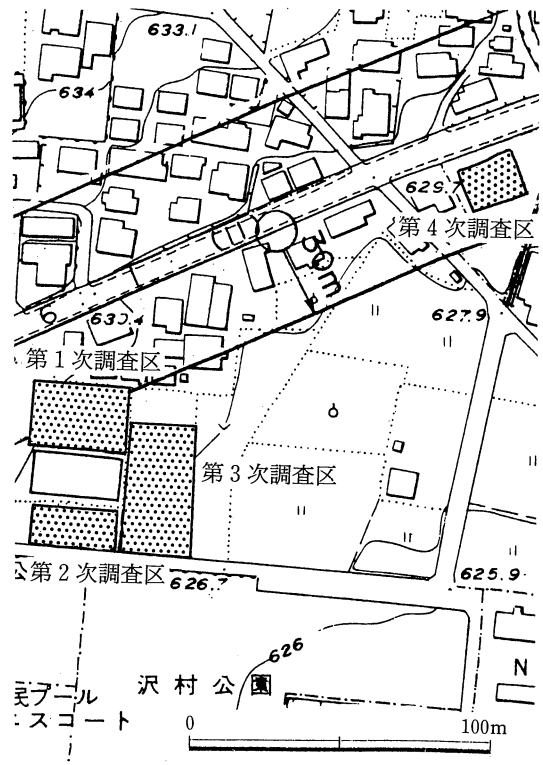
新谷和孝編 1989『松本市沢村旧射的場西遺跡』松本市教育委員会

森 義直 1998「II-1. 遺跡の立地と地形・地質」『蟻ヶ崎遺跡』松本市教育委員会

松本市 1996『松本市史 第1巻 自然編』



第2図 周辺の遺跡分布



第3図 調査区の位置

### III 調査の概要

#### 1. 調査結果

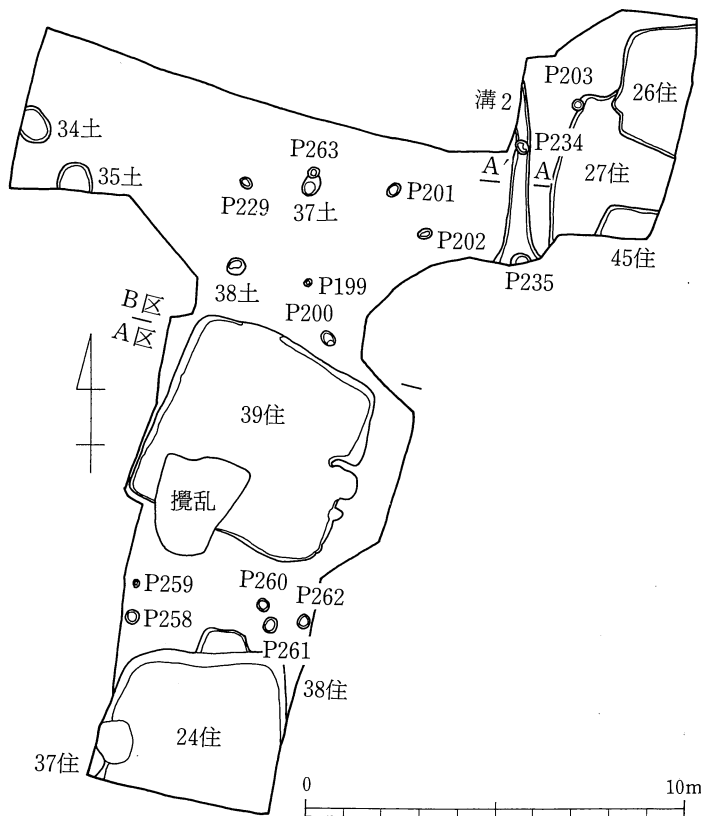
本調査では試掘調査時の所見に基づき、遺構検出面までの表土除去および埋戻し作業には重機を用い、遺構検出・掘削作業は人力で行った。また、遺構および遺物出土状況などの測量記録は、磁北方向に沿った任意の3m方眼を設定して行った。

次節において詳しく触れるが、遺構検出面は第3層と第4層との層理面である。しかし部分的に第3層と第4層の間に漸移層も認められ、漸移層を取り除いた後に確認し得た遺構もあった。検出した遺構としては、竪穴住居址7棟、土坑4基、ピット14基、溝1条などがあり、これらは伴出した遺物から古代1期～9期に帰属するものと考えられる。また遺構には伴わなかったものの、縄紋時代に帰属すると考えられる石器も出土が確認された。なお、本調査と平行して、本調査区(A, B区)の北側に870.1㎡のグリットを設定して試掘調査も行ったが、ほぼ同時期の集落が確認されている。

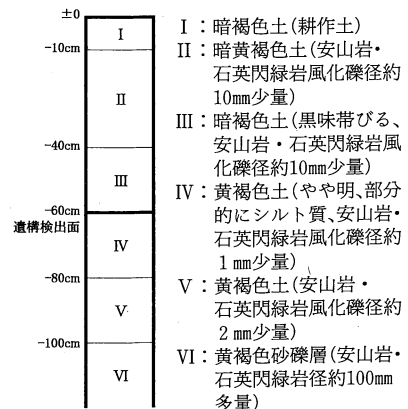
#### 2. 基本層序

調査区内の基本的な土層は6層が確認された。第1層は耕作土である。第2層は安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む暗黄褐色土であり、層厚約30cmを測る。第3層は安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む黒味を帯びる暗褐色土層であり、層厚約20cmを測る。なお第3層と第4層との層理面が遺構検出面である。第4層は部分的にシルト質を呈する黄褐色土層であり、安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む、層厚約20cmを測る。第5層は安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む黄褐色土層であり、層厚約20cmを測る。第6層は安山岩および石英閃緑岩の巨礫を多量に含む黄褐色砂礫層であり、層厚は不明である。基本的には基盤が黄褐色系統の色調であるの

に対し遺構覆土は暗褐色系統の色調であった。本調査に先行して行われた第4次調査においても、ほぼ同様の堆積状況が認められたが、第4次調査区中央において確認された礫分布範囲は本調査では確認されなかった。



第4図 旧射的場西遺跡Ⅲ 遺構分布図



第5図 旧射的場西遺跡Ⅲ 基本層序

### 3. 検出遺構

---

#### ① 竪穴住居址

旧射的場西遺跡Ⅲでは古代1期～9期に帰属すると考えられる竪穴住居址7棟を検出した。ここではそれぞれの堆積状況、住居址内施設、遺物出土状況などについて概観しておきたい。

##### 第24号住居址

A区南部において第37・38号住居址を切る状況で検出した。調査区域外にかかるため、調査し得たのは北半部約4/5程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は12層を確認した。第1層中では安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が20点以上出土した。住居址内施設としては竈、周溝およびピット8基を確認した。竈は西壁部に認められた。ピットは規則的に配置され、中でも第2・4・5・7号ピットが支柱穴と考えられる。それらの他北壁中央部においてはテラス状の段およびピットが認められた。遺物は土師器、須恵器が出土した。これらの土器様相から本住居址は古代2期～3期のものと考えられる。

##### 第26号住居址

B区北東部において第27号住居址を切る状況で検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは西半部約1/2程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は2層を確認した。第1層中では安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が40点以上出土した。住居址内施設としてはピット2基を確認したが、支柱穴は不明である。また西壁部には張り出し部も認められたが、性格は不明である。遺物は土師器（黒色土器A含む）、須恵器、灰釉陶器、鉄製紡錘車などが出土した。これらの土器様相から、本住居址は古代7～8期のものと考えられる。

##### 第27号住居址

B区北東部において第26号住居址および第45号住居址に切られる状況で検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは西半部約2/5程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は4層を確認した。第1層中においては、安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が40点以上出土した。住居址内施設としては、ピット4基を確認したが支柱穴は不明である。また北西隅部には張り出し部も認められたが、性格は不明である。遺物は須恵器などが出土した。これらの土器様相から、本住居址は古代5期以前のものと考えられる。

##### 第37・38号住居址

A区南部において第24号住居址に切られる状況で検出した。調査区域外にかかるため、調査し得たのは約1/20にも満たないが、床面が認められたため住居址とした。遺構覆土はそれぞれ1層を確認した。形態、規模、住居址内施設は不明である。遺物はほとんど出土していないが、第24号住居址に切られることから、第37・38号住居址は共に古代2～3期以前のものと考えられる。

##### 第39号住居址

A区北部において近代の攪乱土坑に切られる状況で検出した。遺構覆土は10層を確認した。第1層中では安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が40点以上出土した。住居址内施設としては、竈、周溝およびピット18基を確認した。竈は東壁部に認められた。第1・5・8号ピットは規則的に配置され、支柱穴と考えられる。南東隅部においては遺物および礫の集中する第14号ピットが認められた。それらの他、竈の両脇にも対応する位置にピットが認められた。遺物は土師器、須恵器が出土した。これらの土器様相から本住居址は古代1～2期のものと考えられる。

##### 第45号住居址

B区北東部において第27号住居址を切る状況で検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは北西部

約1/12程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は2層を確認した。住居址内施設としてはピット1基を確認したのみであり、支柱穴は不明である。遺物は少ないが須恵器、灰釉陶器などが出土した。これらの土器様相から本住居址は古代8期～9期のものと考えられる。

## ② 土坑・ピット・溝

土坑はB区西半部において4基を検出した。遺物はほとんど出土しておらず、時期は不明である。ピットはA区中央部において5基を、B区中央部において9基を検出した。遺物はほとんど出土しておらず、時期の不明なものが多い。第2号溝はB区北東部において南北に走る状況で検出した。第2号溝内においては第234号ピットおよび第235号ピットを検出した。第2号溝では古代2～4期に帰属すると考えられる須恵器壺が、第235号ピットでは古代6～8期に帰属すると考えられる土師器杯A（黒色土器A）が、それぞれ出土している。

## 4. 出土遺物

### ① 土器

主として住居址覆土などより、古代1期～9期に帰属すると考えられる遺物が出土している。ここでは各住居址単位土器群の中でも、出土状況が良好なものについて概観しておきたい。

第24号住居址土器群) 土師器杯B、小型甕B、甕、甕A、甕B、須恵器杯蓋B、杯、杯A、長頸壺、ミニチュア土器甕などより構成され、古代2期～3期のものと考えられる。

第26号住居址土器群) 土師器杯A、杯蓋、小型甕、小型甕D、甕、鍋、土師器（黒色土器A）杯、杯A、高杯、椀、鉢、須恵器杯蓋B、杯、短頸壺C、鉢C、甕、灰釉陶器小瓶などより構成され、古代7～8期のものと考えられる。

第27号住居址土器群) 須恵器壺などより構成され、古代5期以前のものと考えられる。

第39号住居址土器群) 土師器小型甕、小型甕B、土師器（黒色土器A）高杯、須恵器杯A、壺、甕などより構成され、古代1～2期のものと考えられる。

第45号住居址土器群) 須恵器杯、灰釉陶器椀などより構成され、古代8期～9期のものと考えられる。

### ② 石器

原位置を遊離したと考えられる状況で、縄紋時代に帰属すると考えられる石器が出土している。石材には黒耀岩、チャート、輝緑凝灰岩などが用いられており、鏃形石器、打製斧形石器などが認められた。

### ③ 金属器

第26号住居址において鉄製紡錘車、B区検出面において環状鉄製品1点が、それぞれ出土している。

## IV 小結

旧射的場西遺跡第3次調査では、古代1期～9期に帰属すると考えられる集落を確認した。第3次調査区に隣接する第1次、第2次調査においてもほぼ同時期の集落が確認されており、当該期集落の広がりを確認し得た。遺構密度という点では集落の中心部と考えられる。B区北東部において南北に走る状況で検出した第2号溝により区画される北西側一帯には竪穴住居址が認められず、土坑およびピットが集中する状況には注意が必要であろう。なお、本調査と同時に実施した試掘調査においてもほぼ同時期の集落の広がりが確認されている。また、これまでの調査においても確認されていたものであるが、縄紋時代遺物の出土は本遺跡より北西に伸びる台地上に、当該期集落の存在する可能性を濃厚なものにしたと考えられる。

第1表 旧射的場西遺跡Ⅲ 住居址一覧

法量は面積が㎡単位である他はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長×短×深	床面積	主軸方位	カマド	主柱穴	備考	時期
24	A区	隅丸方形	(600)×520×30	(25.4)	N-80°-W	西壁中央	P2、4、5、7。径46~64。深28~32。	区域外にかかる。37・38住を切る。	2~3期
26	B区	隅丸方形	<328>×<168>×20	<5.2>	N-8°-E	不明		区域外にかかる。27住を切る。	7~8期
27	B区	隅丸方形	<400>×<300>×23	<7.1>	N-12°-E	不明		区域外にかかる。26・45住に切られる。	5期以前
37	A区	不明	<72>×<32>×18	<0.2>	不明	不明		区域外にかかる。24住に切られる。	2~3期以前
38	A区	不明	<204>×<112>×21	<0.5>	不明	不明		区域外にかかる。24住に切られる。	2~3期以前
39	A区	隅丸方形	572×532×12	27.0	N-23°-E	東壁中央	P1、5、8。径52~90。深20~40。	攪乱に合う。	1~2期
45	B区	隅丸方形	<136>×<84>×20	<1.0>	不明	不明		区域外にかかる。27住を切る。	8~9期

第2表 旧射的場西遺跡Ⅲ 土坑一覧

法量はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長軸×短軸×深	備考	時期
34	B区	楕円形	100×80×8	区域外にかかる。	
35	B区	楕円形?	<72>×92×12	区域外にかかる。	
37	B区	楕円形	60×44×16	P263に切られる。	
38	B区	円形	48×44×8		

第3表 旧射的場西遺跡Ⅲ ピット一覧

法量はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長軸×短軸×深	備考	時期
199	B区	楕円形	24×17×8		
200	B区	楕円形	47×34×23		
201	B区	楕円形	43×27×12		
202	B区	楕円形	38×27×8		
203	B区	円形	26×26×11	27住を切る。	
229	B区	楕円形	32×28×11		
234	B区	楕円形	40×32×19	溝2内。	
235	B区	円形?	55×26×<42>	溝2内。区域外にかかる。	6~8期
258	A区	円形	38×37×25		
259	A区	円形	28×16×9		
260	A区	円形	34×33×23		
261	A区	楕円形	43×36×30		
262	A区	円形	34×31×21		
263	B区	円形	33×28×14	37土を切る。	

第4表 旧射的場西遺跡Ⅲ 実測区掲載金属器属性一覧

法量は重量がg単位である他はmm単位。

No.	出土遺構	器種	素材	重量	備考
57	26住	紡錘車	鉄製	23.0	紡輪部。紡輪径43.5、紡輪厚4.1、接続部軸径4.4。
58	B区	環状鉄製品	鉄製	31.7	断面楕円形状を呈する環状鉄製品。最大径49.3、最小径48.8、断面最大径8.0、断面最小径6.1。

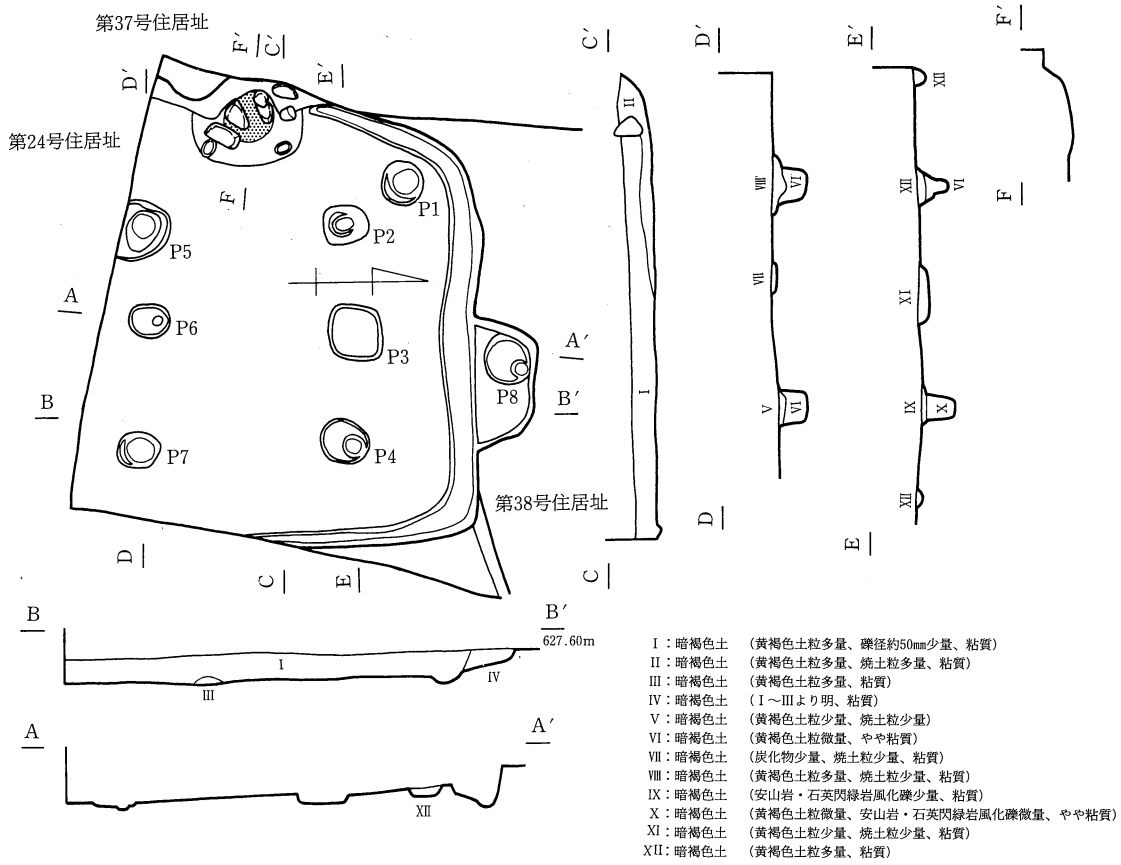


第5表 旧射の場西遺跡III 実測図掲載土器属性一覧

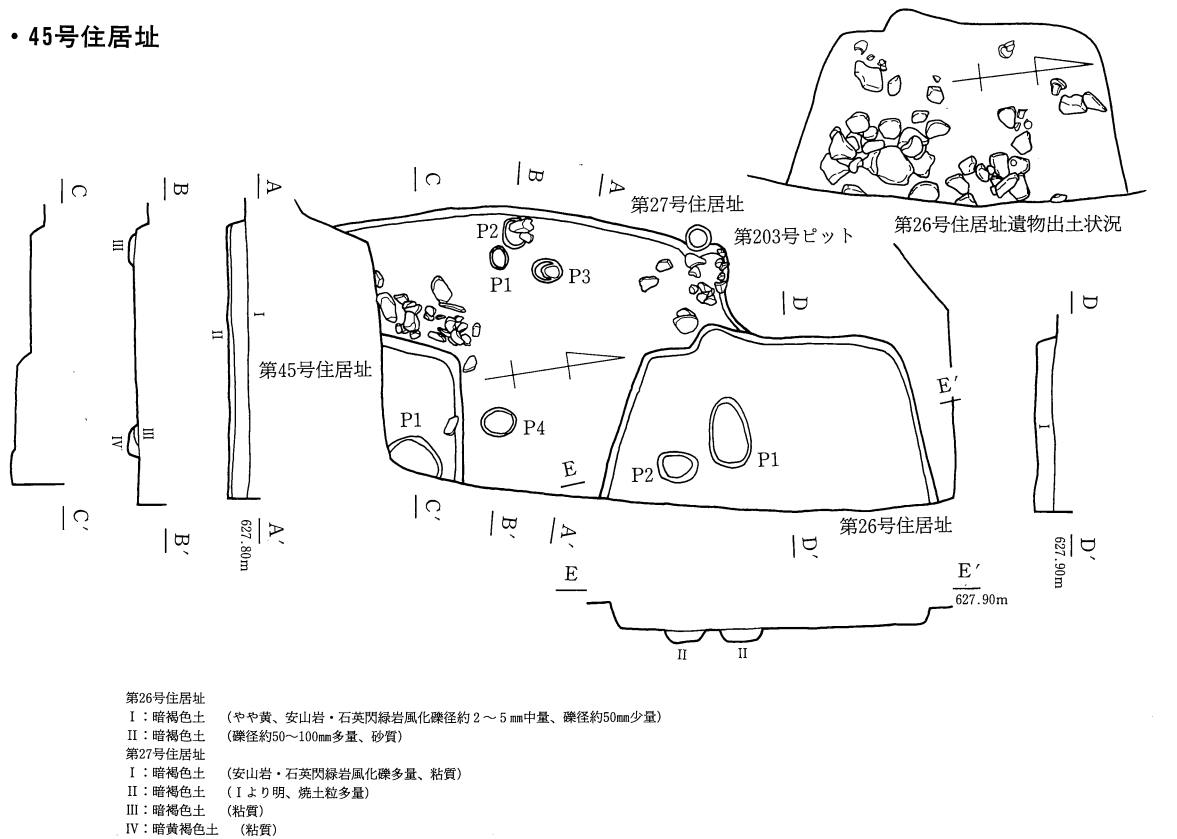
( ) は反転復元値を示す。— は不明かもしくは該当しないことを示す。

No	出土遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存度		成形・調整・形態の特徴等	備考
							口縁	底部		
1	24住	須恵器	蓋B	(15.4)	—	—	1/12	—	内外面ロクロナデ 外面回転ヘラケズリ ロクロ右回転	
2	24住	須恵器	杯B	9.2	—	—	2/3	—	内外面ロクロナデ 高台剥落	
3	24住	須恵器	杯A	(12.2)	(7.3)	(3.35)	1/10	—	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後ナデ	
4	24住	須恵器	杯A	(14.4)	8.6	4.8	—	3/4	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後ナデ	
5	24住	須恵器	杯	(16.7)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ	
6	24住	土師器	小型甕B	—	5.5	—	—	完	ヨコハケ 内面ナデ 底部木葉痕	
7	24住	土師器	小型甕B	(15.0)	—	—	1/2	—	ハケメ摩滅 内面上ハケメ・胴ナデ	口縁部歪み大
8	24住	須恵器	長頸壺	—	(9.5)	—	—	一部	内外面ロクロナデ 外下半回転ヘラケズリ	底部焼成時の付着物
9	24住	土師器	甕A	—	9.5	—	—	完	ナデ 内面ナデ 底部ケズリ状ナデ	
10	24住	ミニチュア	甕	(7.6)	—	—	1/5	—	内外面ナデ 手握ね	
11	24住	土師器	甕	(18.0)	—	—	1/12	—	ケズリ 内面ナデ	いわゆる武蔵甕
12	24住	土師器	甕B	(21.6)	—	—	1/3	—	縦ハケメ 内面横ハケメ	内面炭化物付着
13	24住	土師器	甕	20.6	(8.2)	(40.8)	1/2	1/4	外面ハケメ 内面ヨコナデ・ハケメ 下半タテナデ 底部ナデ	歪み大
14	26住	須恵器	蓋B	(13.0)	—	—	1/10	—	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ	
15	26住	須恵器	杯	(14.6)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ	
16	26住	土師器	杯A	(15.4)	(5.6)	4.5	1/6	完	内外面ロクロナデ 底部回転系切	
17	26住	土師器	杯A	(13.0)	(6.4)	(4.0)	1/8	1/6	ロクロナデ 内面黒色処理後ミガキ	内黒
18	26住	土師器	杯	(13.2)	(5.6)	(3.4)	1/3	1/2	ロクロナデ 内面ヨコミガキ 底部回転系切	内黒
19	26住	土師器	椀	—	7.0	—	—	完	内面黒色処理後ミガキ 底部回転系切 付高台後ナデ	内黒
20	26住	土師器	椀	—	(7.0)	—	—	1/2	内面黒色処理後ミガキ 底部回転系切	内黒
21	26住	土師器	蓋	—	—	—	—	—	つまみロクロナデ 端部ヨコナデ	
22	26住	灰釉陶器	小瓶	—	—	—	—	1/2	回転ヘラケズリ施釉 内面ロクロナデ 底部回転系切	
23	26住	土師器	不明	—	—	—	—	—	ナデ 内面ナデ 貫通孔あり	
24	26住	土師器	鉢	(19.8)	—	—	1/8	—	ロクロナデ 内面黒色処理後ヨコミガキ	内黒
25	26住	土師器	小型甕D	(13.2)	—	—	1/8	—	カキメ 内面カキメ・ロクロナデ	
26	26住	土師器	小型甕	—	(7.2)	—	—	1/2	カキメ 内面ロクロナデ 底部回転系切	
27	26住	土師器	甕	—	(10.8)	—	—	2/5	ハケメ後ケズリ 内面ナデ 底部ナデ	
28	26住	土師器	甕	—	(12.4)	—	—	2/5	ハケメ摩滅・ケズリ 内面指頭圧痕 底部ナデ	
29	26住	土師器	甕	(21.2)	—	—	1/6	—	ハケメ 内面カキメ・ナデ	
30	26住	須恵器	短頸壺C	(11.2)	6.3	(16.0)	1/4	完	内外面ロクロナデ 外底部付近ヘラケズリ 底部回転系切	口縁、器高歪み
31	26住	須恵器	鉢C	(15.4)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ 自然釉付着(斑状)	摺鉢
32	26住	須恵器	甕	(11.0)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ	
33	26住	土師器	鍋	—	(13.6)	—	—	1/8	ハケメ摩滅・ケズリ 内面ナデ 底部ナデ	
34	27住	須恵器	壺?	(10.0)	—	—	1/20	—	ロクロナデ釉? 内面ロクロナデ	
35	39住	須恵器	杯A	12.0	8.4	3.5	3/4	1/3	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り未調整	
36	39住	須恵器	杯A	(13.0)	(9.8)	3.6	1/3	1/2	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後ナデ	焼成やや軟質
37	39住	須恵器	壺	—	(5.4)	—	—	完	内外面ロクロナデ 肩部2条沈線	
38	39住	土師器	高杯	—	—	—	—	—	杯部ミガキ 脚部外粗いミガキ 内ナデ	内黒
39	39住	土師器	小型甕	—	(5.8)	—	—	一部欠	ハケメ 内面ナデ 底部木葉痕	
40	39住	土師器	甕B	—	(9.6)	—	—	1/6	ハケメ 内面ナデ 底部木葉痕	
41	39住	土師器	甕B	—	(12.6)	—	—	1/6	ハケメ 内面ナデ 底部木葉痕	
42	39住	土師器	甕B	15.6	6.0	30.1	3/4	完	ハケメ 内面上半ナデ下半ハケメ 底部ナデ	
43	39住	土師器	甕B	(25.0)	—	—	1/7	—	ハケメ 内面ナデ	
44	39住	土師器	甕B	—	8.0	—	—	完	タテハケ 底部付近ヨコハケ 内面ナデ 底部木葉痕	
45	39住	土師器	甕B	(21.0)	—	—	1/10	—	ハケメ 内面ヨコナデ	
46	39住	土師器	甕B	(20.6)	—	—	1/6	—	ハケメ 内面ハケ・ナデ摩滅	
47	39住	須恵器	甕	—	(9.8)	—	—	2/3	ナデ摩滅 内面ナデ	
48	45住	須恵器	杯	—	(11.6)	—	—	1/5	ヘラケズリ 内面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 付高台後ナデ	
49	45住	灰釉陶器	椀	—	(7.4)	—	—	1/3	ロクロナデ後ヘラケズリ 施釉ハケ塗り 底部回転ヘラケズリ	
50	P235	土師器	杯A	12.9	7.1	3.9	完	完	ロクロナデ 放射状ミガキ 底部回転系切	内黒
51	溝2	須恵器	壺	—	—	—	—	—	ロクロナデ後回転ヘラケズリ? 底部回転ヘラケズリ	高台欠損
52	A区検	須恵器	杯	—	(7.2)	—	—	3/4	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り	
53	B区検	灰釉陶器	平瓶	—	—	—	—	—	内外面ロクロナデ 外面施釉	
54	B区検	須恵器	四耳壺	—	—	—	—	—	外面タタキ 自然釉付着 内面当具痕	
55	A区検	須恵器	甕	(25.6)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ 口縁ヨコナデ	
56	排土	土師器	甕B	(20.4)	—	—	1/5	—	ハケメ 内面カキメ・ナデ(指圧痕)	

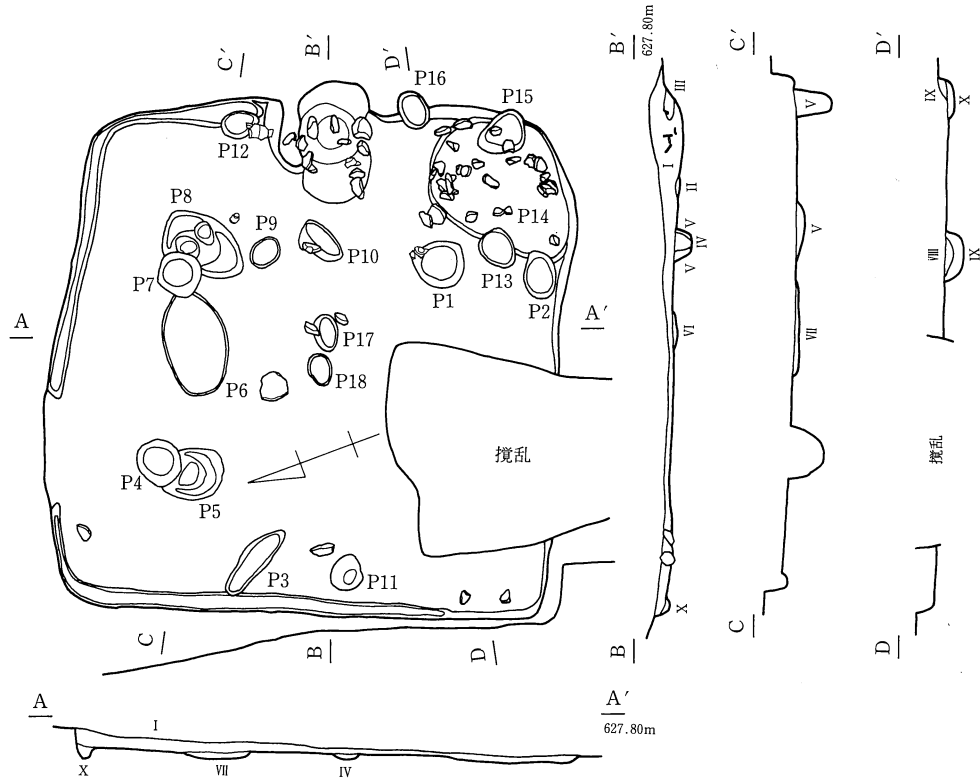
第24・37・38号住居址



第26・27・45号住居址

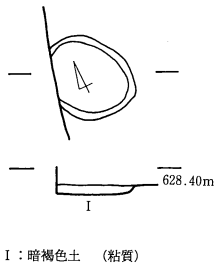


第6図 旧射の場西遺跡Ⅲ 遺構図(1)



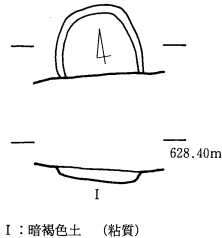
- |  |  |
|--|--|
| I : 暗褐色土 (黄褐色土粒多量、粘質)                      | VI : 暗褐色土 (安山岩・石英閃緑岩風化礫径約 2 mm少量、やや粘質) |
| II : 暗褐色土 (焼土粒多量、粘質)                       | VII : 黄褐色土 (安山岩・石英閃緑岩風化礫径約 1 mm多量)     |
| III : 暗茶褐色土 (焼土粒多量、粘質)                     | VIII : 暗褐色土 (黄褐色土粒径約 10mm少量、粘質)        |
| IV : 暗褐色土 (黄褐色土粒径約 3 mm中量、粘質)              | IX : 暗褐色土 (やや粘質)                       |
| V : 暗褐色土 (IIIより明、安山岩・石英閃緑岩風化礫径約 5 mm少量、粘質) | X : 暗褐色土 (粘質)                          |

第34号土坑



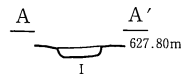
I : 暗褐色土 (粘質)

第35号土坑



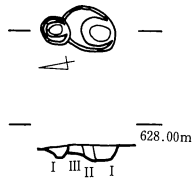
I : 暗褐色土 (粘質)

第 2 号溝



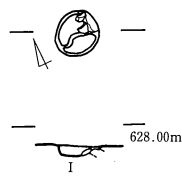
I : 暗褐色土 (安山岩・石英閃緑岩風化礫多量)

第37号土坑



I : 暗褐色土 (焼土粒少量、黄褐色土粒少量、粘質)  
 II : 暗褐色土 (Iより暗、黄褐色土粒少量、炭化物少量、粘質)  
 III : 暗褐色土 (IIより明、焼土粒少量、黄褐色土粒少量、粘質)

第38号土坑

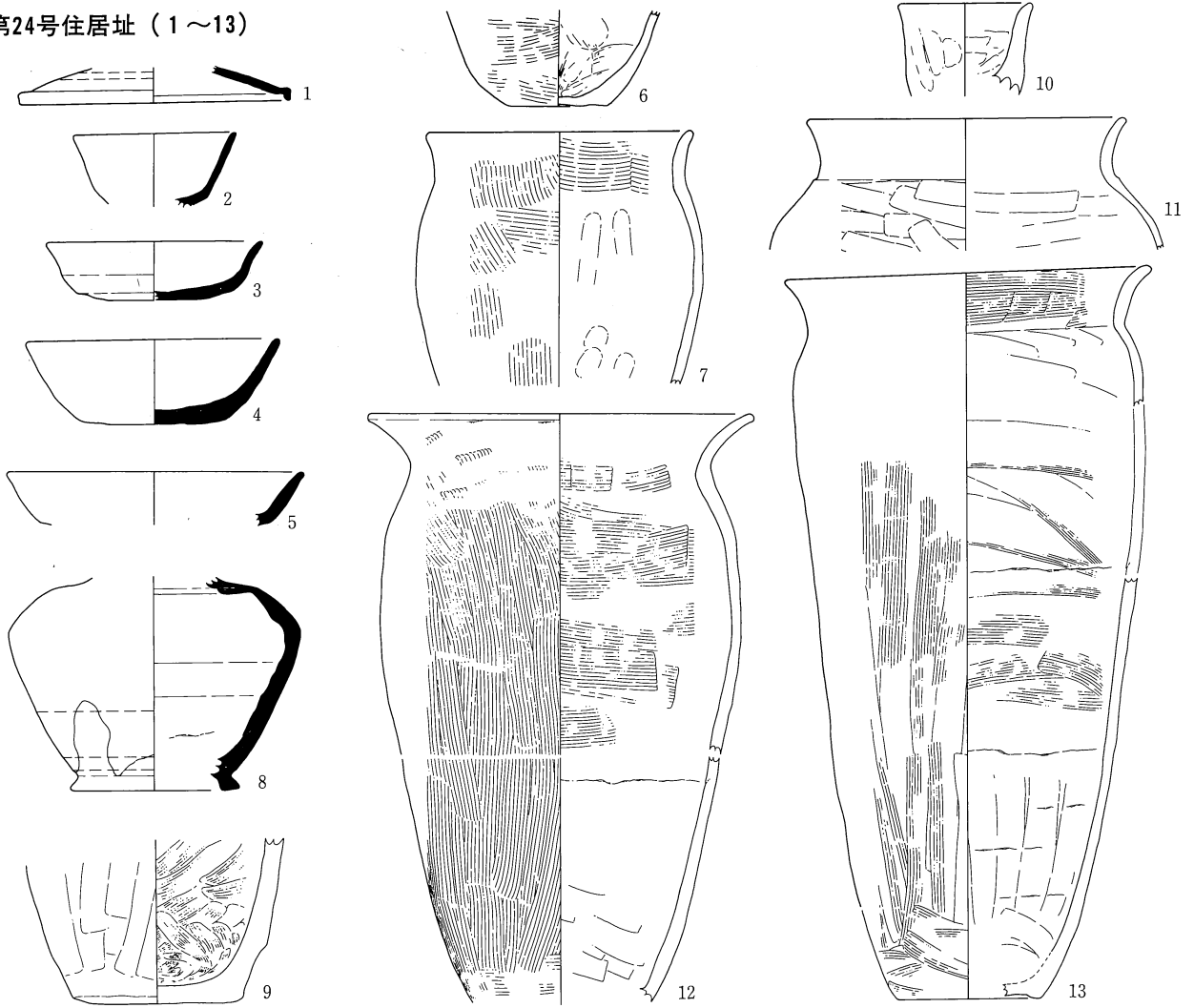


I : 暗褐色土 (粘質)

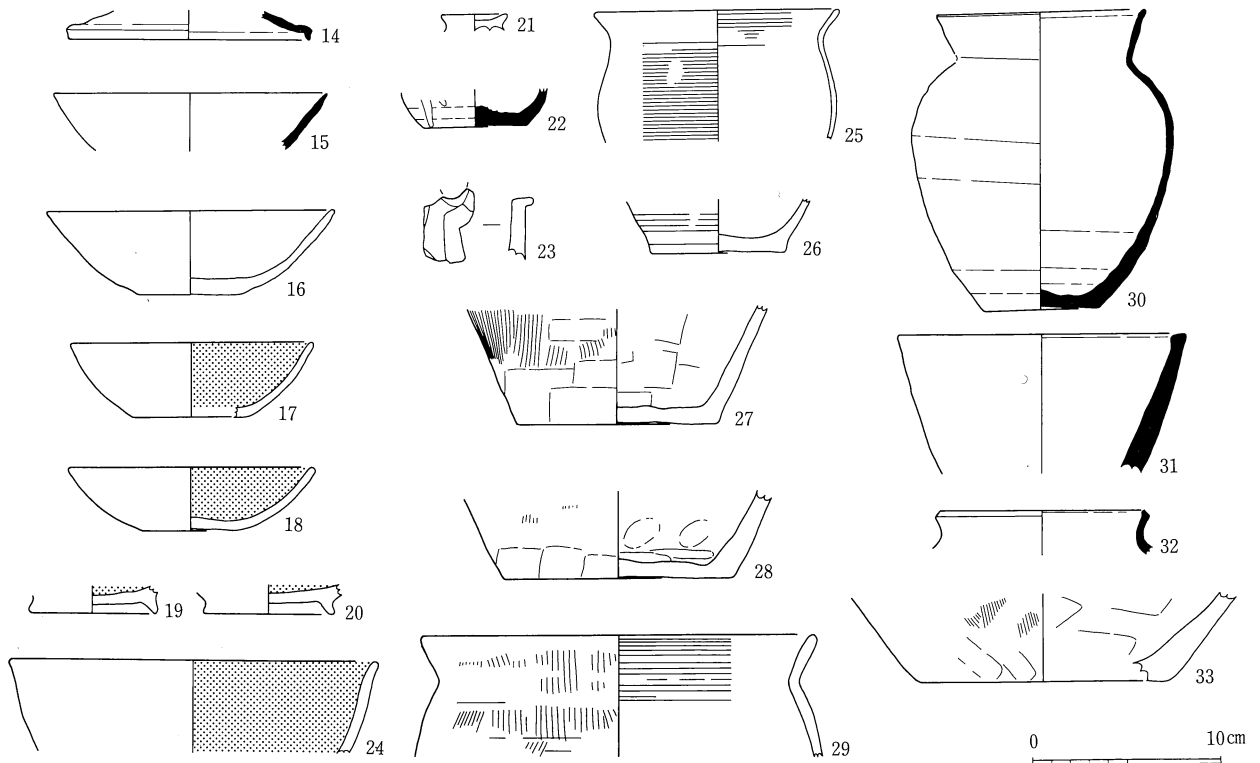


第 7 図 旧射の場西遺跡Ⅲ 遺構図(2)

第24号住居址 (1~13)



第26号住居址 (14~33)

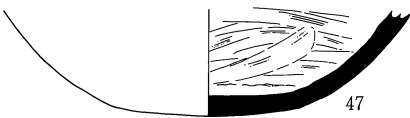
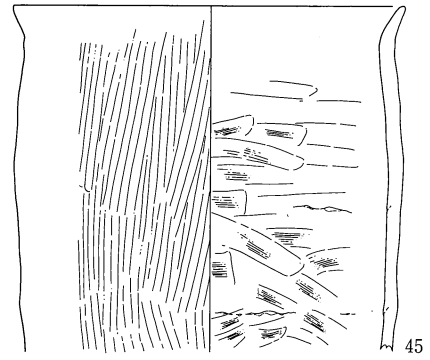
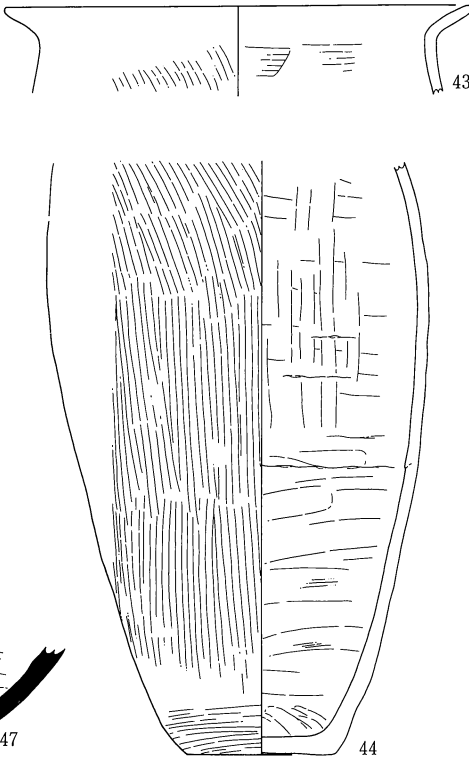
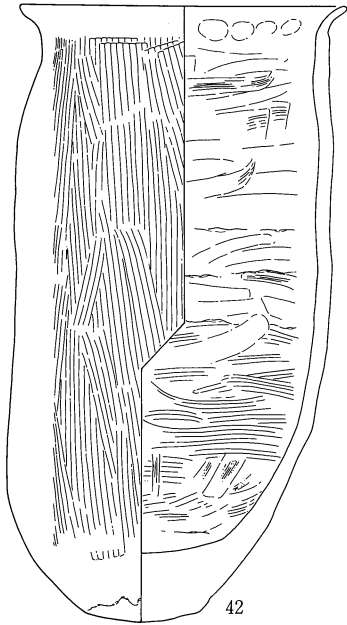
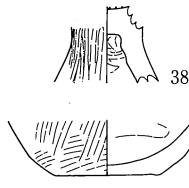
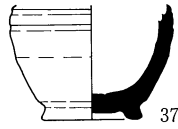
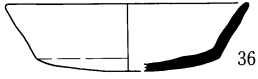
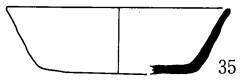


第8图 旧射の場西遺跡Ⅲ 土器(1)

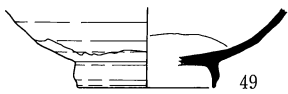
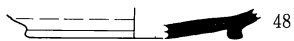
第27号住居址 (34)



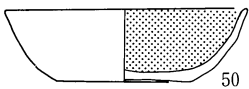
第39号住居址 (35~47)



第45号住居址 (48, 49)



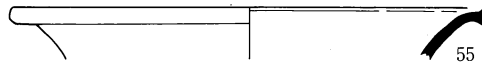
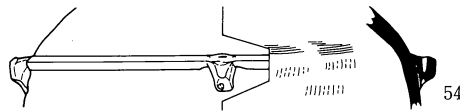
第235号ピット (50)



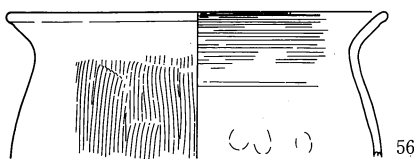
第2号溝 (51)



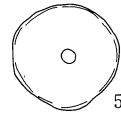
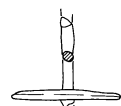
検出面 (52~55)



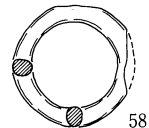
排土 (56)



第26号住居址鉄器



B区鉄器



0 10 cm 0 (57, 58) 5 cm

第9図 旧射の場西遺跡III 土器(2)・鉄器

写真図版



第24・37・38号住居址 完掘状況（東より）



第24号住居址竈 遺物出土状況（東より）



第26号住居址 遺物出土状況（西より）



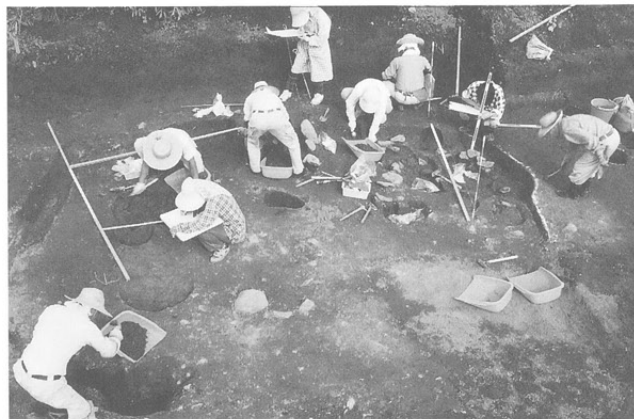
第26号住居址 完掘状況（西より）



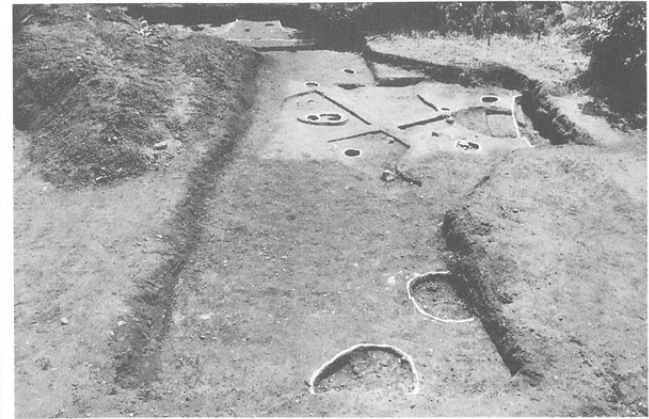
第39号住居址 完掘状況（西より）



第39号住居址竈 遺物出土状況（西より）



調査風景（第39号住居址）



B区完掘状況（西より）

長野県松本市 旧射的場西遺跡Ⅲ 緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし きゅうしゃてきじょうにしいせき きんきゅうはつくつちようさほうこくしょ								
書名	長野県松本市 旧射的場西遺跡Ⅲ 緊急発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	松本市文化財調査報告								
シリーズ番号	No.140								
編著者名	直井雅尚 田多井用章 太田圭郁								
編集機関	松本市教育委員会								
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号 (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710)								
発行年月日	1999 (平成11) 年 3 月 31 日 (平成10年度)								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積		調査原因
		市町村	遺跡番号				本調査 A,B区 153.9㎡	試掘調査 C~F区 870.1㎡	
きゅうしゃてきじょうにし 旧射的場西	まつもとし きわむら 松本市沢村 2丁目1849-1	20202	145	36度 15分 01秒	137度 58分 38秒	19980506~ 19980610 (実働29日)	本調査 A,B区 153.9㎡	試掘調査 C~F区 870.1㎡	民間開発事業 (宅地造成)
所収遺跡名	種別	主な時代 (A,B区)		主な遺構 (A,B区)		主な遺物 (A,B区)		特記事項	
旧射的場西	集落跡	縄 紋 古 代 (古墳時代終末期~ 奈良・平安時代)		なし 竪穴住居址 7軒 土坑 4基 ピット 14基 溝 1条		石器(鏃形石器、斧形石器) 土師器 須恵器 灰釉陶器 金属器		古代1期~9 期に帰属する と考えられる 集落の調査。	

松本市文化財調査報告No.140  
 長野県松本市  
 旧射的場西遺跡Ⅲ  
 緊急発掘調査報告書  
 発行日 平成11年 3 月 26 日  
 発行者 松本市教育委員会  
 〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号  
 印刷 藤原印刷株式会社  
 〒390-0865 長野県松本市新橋7番21号

